

「新学習指導要領」の趣旨を活かした、令和型単元計画と英語科学習指導案

日 時：令和8年10月7日(水) 5校時

学校名：神戸市立太山寺中学校

対 象：2年4組34名

会 場：2年4組教室

指導者：花田 悠高

A L T：Fellores Juanito Facto

1. 単元について

単元（題材）名	Unit4 What is important in a homestay? (NEW HORIZON English Course 2) (TOKYO SHOSEKI)		
学習指導要領に関連する領域別目標	1 目標（3）話すこと（やりとり） ア 関心のある事項について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする。 イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする。 ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて述べ合うことができるようにする。 2 目標（4）話すこと（発表） ア 関心のある事項について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができる。 イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。 ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを簡単な語句や文を用いて話すことができるようにする。		
単元（題材）の目標	(1) 既習の表現を用いて、事実や考え、気持ちなどを伝えあうことができる (知識・技能) (2) 新しいALTの先生の国の生活を知り、日本での生活についてALTの先生が今後の日本での生活が安心して生活できるように、事実や考えを整理し、学校生活や日本での過ごし方を提案することができる (思考力・判断力・表現力等) (3) 相手にわかりやすく伝わるように、事実や考えを伝え合おうとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)		
生徒の実態	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	文法は理解しているが、それを使って自由に自己表現することができるまでにはまだ至っていない生徒も多い。また、品詞の区別ができておらず、	Q&A、基本文の内容を使って自分の意見や理由を述べることができる生徒も増えてきた。また、スピーキングやプレゼンテーションで何を伝えたら	個人やグループでのプレゼンテーションを楽しく、積極的に、前向きに取り組む生徒が多い。また、ペア活動でお互いの良い所などを取り入れようとする態度が

	語順や文構造を理解できていない生徒もいる。しかし、基本文の定着ができており、決まった型なら表現できる生徒が増えてきた。 ※授業後の課題として、各自の発表ややり取りの内容を英文で書かせ、添削をさせ、授業でよくある間違いをフィードバックしている	良いかなどを理論立てて話すことができるようになってきた。しかし、即興で英文を作成し、円滑なコミュニケーションを図ったり、掘り下げられた内容を聞かれた際に、的確な答えを返すことに改善の余地がある。 ※マッピングを共有し、キーワードをもとに質問を作る活動をしている。	見られる。 しかしながら、自信を持って英語を話すことが難しい生徒は原稿を作り、そのまま読んでしまっている状況である。 ※発表後にペアまたはグループ内でアドバイスをもらう時間を確保するようにしている。
--	--	---	--

単元（題材）設定の理由	(1) 生徒観 本学級は明るく前向きに何事も取り組む生徒が多い。英語の授業においては素直に自分の気持ちを表現したり、友達の発表を聞いて良いと思ったところは真似をして自分の英語力向上に活かそうとする姿勢が見られる。ペアワークやグループ活動でも、互いに助け合い、教え合う姿勢が定着している。 1 学期終了時にアンケートを実施した結果、英語が好き・得意と回答した生徒は 45%いるのに対し、英語が嫌い・苦手と回答した生徒は 44%とおおよそ半々の割合であった。英語が苦手である生徒ほど、単語・文法が覚えることができていないとの回答が多かったため、帯活動を徹底し、トレーニングをするところから少しずつ自信をつけていくことを期待したい。また、相手の話を聞いて即興でコミュニケーションを図ることが難しいと感じている生徒がいることが課題であるため、今後もありとりの機会を多く設けていきたい。 (2) 教材観 本単元「What is important in a homestay?」では、異文化環境での生活マナー、コミュニケーションの大切さや難しさなどについてさまざまな気付きの場面がある単元である。9 月から新しく ALT の先生が来日したため、フィリピンの学校生活との比較を行いながら、日本での学校生活について新 ALT の先生に伝えることをゴールとする。ALT の先生にインタビューをしてフィリピンと日本の違いについて理解をするために「話すこと（やりとり）」の育成や、これまで学んできた文法や表現を実際の場面で活用することで「話すこと（発表）」の育成を図る。 (3) 指導観 本単元を達成するために 9 月までに指導してきたことは大きく 3 点ある。 1 点目は「基本的な英文を作る力」を高めるために、帯活動として基本文トレーニングに取り組んできた。ペアを組み、相手の質問に即答できるようにトレーニングを行ってきた。生徒はこれにより、簡単な文を使って自分の考えを応答することができるようになった。しかし、まだまだ定着度や応用力に改善の余地があるため、今後も取り組みを続ける。
--------------------	--

2点目は思考ツールを使用し、「自分の考えや意見を広げ、整理する力」を高める取り組みを続けてきた。生徒はこれにより基本文トレーニングで身につけてきた表現を活用し、トピックに対する自分の意見を順序だてて伝えることができるようになってきた。今後、関連する質問ができるように練習を重ねる必要がある。 3点目は「話すこと（発表）」や「話すこと（やりとり）」を高める上で、自己調整の時間を確保することに努めてきた。発表やペアワーク、グループワークでやりとりを行った後に、自分が言いたかったが言えなかった表現や、他者の発表等を見た後に、良い例を自分の発表に取り入れるなど、自分の英語力を改善することができるように取り組んできた。			
単元（題材）の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<知識> have to, don't have to や must などの（準）助動詞と動名詞の意味・用法を理解している。 <技能> 学んだ文の構造を活用し、日本の生活習慣や生活マナーを説明することができる。	新しいALTの先生の出身の国（フィリピン）と日本の学校生活やルールの違いを、ALTの先生へのインタビューを通して、情報を収集・整理し、簡単な語句や文を用いて表現することができる。	新しいALTの先生の出身の国と日本の学校生活やルールの違いについて、事実や自分の考え・気持ちなどを整理して、簡単な語句や文を用いて話そうとしている。 ペアワークやグループワークにおける、仲間の良い発表や、やりとりを参考にしながら自分の英語に取り入れようとしている。またALTの先生からもらったアドバイスを踏まえて、より積極的に自分の英語の改善をしようとしている。

2単元の指導と評価の計画（全10時間）

活動の意図 ※単元計画の時数と一致する	①①基本文トレーニング・・・大事な文法や語彙の定着に役立つ。 また、生徒がプレゼンや書く活動の際に参考にすることができる。 ②最終スピーチとループリックの説明・・・単元の最初に説明を行うことにより、生徒に見通しを持たせることを可能とする。
	②①マンダラート・・・生徒の考えを広げることを手助けする。 ②ペアマッピング・・・ペアでマッピングを行うことにより、他者参照ができ、アイデアをつなげ、深めることができる。 ③自己調整・・・自分で他者の良い所や、自分が言えなかった所を振り返ることで英語の質を高めることができる。

		④グループ変更・・・グループ変更を行い、再度発表を行うことにより、他者参照できる数を増やす意図がある。 3, 4①教科書音読・・・英語らしい発音の指導を入れることで、発表の際の発音やイントネーションを意識させることにつなげる。 ②書くこと・・・単元の途中に書くことを入れることにより、英語の正確さを追求することが可能となる。 5①3択ペアチャット・・・前時のキーワードを盛り込んだテーマを設定することにより、復習を行うことができる。また、キーセンテンスに留まらずに応用力を身に付けることが期待できる。 ②ペンの色の変更・・・自分の考え、他者から見た部分、自分の課題を色分けすることにより、何が変化をしたかの振り返りを行いやすくする。また、指導者にとっても評価材料とすることができる。 6基本文テスト・・・単元の途中でテストを行うことで基本文の定着が図ることができる。また、生徒の苦手、弱点を指導に活かすことができる。 7ALT へのインタビュー活動・・・単元の問いに相手意識を持たせることで生徒の参加意欲を促し、発表内容の向上に期待ができる。 9中間発表・・・中間発表を行うことで他者参照を行い、自己更新のための機会が生まれ、生徒のプレゼン力の向上のために主体的に工夫をすることが期待できる。 10事後課題・・・発表（話すこと・やりとり）に留まらず書くことで復習になる。また、正確性を追求することができる。		
時間	学習内容		【評価の観点】 評価規準	学習課題（■）と主な学習（言語）活動（○）
	帯活動	学習内容		
10	帯活動なし	単元を通して学んだことを生かし、日本の学校生活やマナーについて発表する。終われば、聞いている生徒からの質疑応答を行う。	【話すこと（発表）】 ALT の先生に日本の学校生活やルールについて ALT の先生に向けてスピーチを行うことができる。	■ALT の先生に日本の学校生活やルールについて ALT の先生に向けてわかりやすくスピーチを行うことができる。 ○事後活動：スピーチした内容を英文に起こす。Teams の課題機能を使って提出 ○⑤ふりかえり 単元前と単元後を比較して、何ができるようになったのか、次の課題は何かをワークシートを使ってふりかえる。 ④OTE・ALT からフィードバック 生徒からクラスで具体的に良かった点・人を挙げて、他者参照を行えるようにする。また ALT からは知らなかった日本の生活習慣やマナーについても取り上げてもらう。 ○③発表と即興の質疑応答

				それぞれの発表に発表者からの問いかけと発表後に質疑応答の時間を設ける。 ②発表時のルールを確認する ①授業の流れと目標の確認 Teams で PowerPoint を作成して発表を行うが、電池残量や当日の不具合等の対策として前日までに Teams に提出をさせる。			
				<table><tr><td>主体的な学び</td><td>対話的な学び</td><td>深い学び</td></tr></table>	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
主体的な学び	対話的な学び	深い学び					
9 本 時	3 択ペア チャット	中間発表 発表本番に向けての 中間発表を行う。	【話すこと（発表）】 事実や自分の考えを整理したマッピングをもとに簡単な語句や文を用いて日本の学校生活について伝えることができる。 自己調整を図り、自分の発表を改善することができる。	■ 日本の学校生活についてのプレゼンテーションを改善し、わかりやすく発表ができるようになる。 ○⑨ふりかえり 他の生徒のスピーチを聞いて、自分のスピーチに生かせることをさがす。 ○⑧グループを変えてもう一度発表 ■ 1 回目の時からの変化を意識させてプレゼンを行う。 ○⑦中間指導を受けてより良い発表を作るために本番に向けた作戦タイムを設ける ■ 1 回目のプレゼンから何を変えるのかを明記させる。 ⑥良い例、困り感を共有する中間指導を行い、目標意識を持たせる ■ 答えを教師から言うのではなく、できるだけ生徒たちで気付かせるように促す。 ○⑤グループメンバーからのフィードバック お互いに良いところと改善した方がいいところを敢えてコメントする。 ■ プレゼンの技術だけにとどまらず、ワン先生の手助けをするために必要なフィードバックをするように促す。 ○④ 3, 4 人グループでの中間発表 ■ 発表だけにとどまらず、即興での質疑応答を行い、やりとりする力をつけさせる。 ③フィードバックの仕方の説明 ■ プレゼンの技術だけにとどまらず、ワン先生の手助けをするために必要なフィードバックをするように促す。 ②本番のルーブリックの確認 ○①やりとりする力をつけるために 3 択ペアチャットを行う。 「What should I do			

				①when I have free time ?」 ②if it is rainy outside?」 ③if I am sleepy during the class」 ■should を 3 択ペアチャットのテーマに入れることにより、プレゼンの中身に活かすことを期待する。			
				<table><tr><td>主体的な学び</td><td>対話的な学び</td><td>深い学び</td></tr></table>	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
主体的な学び	対話的な学び	深い学び					
8	基本文トレーニング (Unit4)	発表準備	【話すこと（発表）・（やりとり）】 ペアマッピングをもとに簡単な語句や文を用いて、グループの中で考えを共有することができる。 自己調整を図り、自分の発表を改善することができる。	■日本の学校生活やルールについて考え、ALT の先生に日本の学校生活やルールを伝えることができる。 事後課題：自分のマッピングを写真で撮って Teams で提出。 ⑧ふりかえり 授業の前と後でできるようになったことについて振り返る。 ○⑦グループを変更して再度スピーチを行う 新しいグループに作り変え、再度スピーチを行う。 ○⑥自己調整 ⑤のスピーチで他者参照を行い、相手の良いところを真似したり、言いたかったが言えなかった部分の練習を行う。その際、自分のマッピングに青色のペンで追加する。ペンを忘れた生徒用に余分に青色のペンを準備しておく。 ○⑤グループでスピーチを行う ペアの良かったところを取り入れるため、作戦タイムを設けて、改善させる。 ○④ペアマッピングで質疑応答 マッピングを広げるためにペアで質疑応答を行う。ペアから質問されたワードは赤色で追加する。ペンを忘れた生徒用に余分に赤色のペンを準備しておく。 ○③ペアマッピング A3 のペアマッピング専用シートを利用 ②Teachers' Talk フィリピンとの違いを知るために ALT が日本に			

				来てから驚いた生活習慣やマナーについて紹介する。 ○①基本文を定着させるために基本文トレーニングを行う
				主体的な学び対話的な学び深い学び
7	3 択ペア チャット	ALT の先生の出身国であるフィリピンの 1 日の学校生活についての話を聞き、日本の学校生活との違いをまとめる	【話すこと（やりとり）】 ALT の先生にフィリピンの学校生活について、自分の考えを整理しマンダラートをもとに既習の表現を用いて質問することができる。	■フィリピンの学校生活のツールやマナーについてのインタビューを行い、日本の学校生活と比較して整理することができる。 ALT の先生の出身の国の学校生活のルールやマナーについて聞き、日本の学校生活と違うところをメモする。 ○⑤ふりかえり フィリピンと日本の学校生活における違いに気づかせる ○④マッピングと並行して ALT が各グループを回る。グループは 4 人編成。ALT が回ってきたら、フィリピンの学校生活について聞く。 ○③マンダラート フィリピンでの学校生活について ALT の先生に聞きたいことを書きだす。 ②ALT からフィリピンにおける 1 日の学校生活についてパワーポイントを使って説明する。 ○①やりとりする力をつけるために 3 択ペアチャットを行う。 「What school events do you like the best?」 「①sports day」「②chorus contest」 「③school trip」 enjoy ~ing を使わせる。
				主体的な学び対話的な学び深い学び
6	基本文トレーニング (Unit4)	基本文テスト	【書くこと】	■今まで取り組んできた基本文トレーニングの定着確認を行う。 ○⑤ふりかえり ④音読テストのアナウンス Unit4 終了後、音読テストを行う。Wpm は前回同様 140 程度で取り組ませる。デジタル教科書を利用し、各自計測しながら練習をさせる ○③音読練習 Unit 4 の音読練習。音のつながりや消失についても紹介する。 ②基本文テスト 基本文をベースに、ここまでの授業で習った

				表現をテストする。また3択ペアチャットで取り組んできた。I think ~ is important because…。の形の3択英作文も出題する。 ○①基本文の定着をさせるために基本文トレーニングを行う。			
				<table><tr><td>主体的な学び</td><td>対話的な学び</td><td>深い学び</td></tr></table>	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
主体的な学び	対話的な学び	深い学び					
5	3択ペアチャット	日本とフィリピンの電車やバスにおけるルールや乗車マナーなどを比較する。	【話すこと（発表）・（やりとり）】 日本での交通機関のルールやマナーについて、簡単な語句や文を用いて、伝えることができる。	■日本での交通機関のルールやマナーについて、簡単な語句や文を用いて、伝えることができる。 ○⑨ふりかえり ○⑧グループを変更して再度スピーチを行う 新しいグループに作り変え、再度スピーチを行う。 ○⑦自己調整 ⑥のスピーチで他者参照を行い、相手の良いところを真似したり、言いたかったが言えなかった部分の練習を行う。その際、自分のマッピングに青色のペンで追加する。ペンを忘れた生徒用に余分に青色のペンを準備しておく。 ○⑥グループでスピーチを行う 作戦タイムを設けて、取り組ませる ○⑤ペアマッピングで質疑応答 ペアで質疑応答を行う。ペアから質問されたワードは赤色で追加する。ペンを忘れた生徒用に余分に赤色のペンを準備しておく。 ○④ペアマッピング A3のペアマッピング専用シートを利用 ○③マンダラート ②Teacher Talk 乗車中には電話がかかってきても出ない、もしくは後でかけなおす例を、生徒とのやり取りの中で引き出す。 ○①やりとりする力をつけるために3択ペアチャットを行う。			
				<table><tr><td>主体的な学び</td><td>対話的な学び</td><td>深い学び</td></tr></table>	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
主体的な学び	対話的な学び	深い学び					
4	基本文トレーニング(Unit4)	Unit 4 Read and Think 2	【書くこと】 教科書本文を読み、自分がホームステイをどこかの国でするとして、自分にとって必要なこと	■自分がホームステイをどこかの国でするとして、自分にとって必要なことを簡単な語句や文を用いて、書くことができる。 ○⑧ふりかえり ⑦課題の提出 Teamsにて課題を提出する。iPad 忘れについては、期限に猶予を持たせ、自宅で提出をさせ			

			を簡単な語句や文を用いて、書くことができる。	る。 ○⑥自分がどこかの国でホームステイをすることで、自分にとって必要となりそうなものについてペアで話をする。 ○⑤本文の「純がホームステイの体験」について読んで、純が必要だと感じているものを英語で答える。 ○④ペアでの音読練習 音のつながりなどが正しく発音できているかをチェックする。速度も気にしてほしいので、ペアが時間を計測する。 ○③教科書本文の音読練習 音のつながりや消失を中心に指導する。 ○②今回のターゲットセンテンスを定着させるキーセンテンスの練習 ○①基本文を定着させるために基本文トレーニングを行う。			
				<table><tr><td>主体的な学び</td><td>対話的な学び</td><td>深い学び</td></tr></table>	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
主体的な学び	対話的な学び	深い学び					
3	基本文トレーニング (Unit4)	Unit 4 Read and Think 1	【書くこと】 教科書本文を読み、ルーカスとヨナが「どうすべきか」という悩みに簡単な語句や文を用いて、応えることができる。	■ルーカスとヨナが「どうすべきか」という悩みに簡単な語句や文を用いて、応えることができる。 ○⑦ふりかえり ○⑥課題の提出 Teams にて課題を提出する。iPad 忘れについては、期限に猶予を持たせ、自宅で提出をさせる。 ○⑤本文のルーカスの「What should I do?」ヨナの「What can I say?」に応える文章を作る。 ○④音読練習 音のつながりなどが正しく発音できているかをチェックする。速度も気にしてほしいので、ペアが時間を計測する。 ○③教科書本文の音読練習 音のつながりや消失を中心に指導する。 ○②今回のターゲットセンテンスを定着させるためにキーセンテンスの練習を行う。 ○①基本文を定着させるために基本文トレーニングを行う。			
				<table><tr><td>主体的な学び</td><td>対話的な学び</td><td>深い学び</td></tr></table>	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
主体的な学び	対話的な学び	深い学び					
2	基本文トレーニング (Unit4)	Unit4 Part1, Part2	【話すこと（やりとり）】 日本での食事で	■日本での食事マナーやルールについて簡単な語句や文を用いて、伝えることができるようになる。			

			のルールやマナーについて、簡単な語句や文を用いて、伝えることができる。	⑨ふりかえり ○⑧グループを変更して再度スピーチを行う 新しいグループに作り変え、再度スピーチを行う。 ○⑦自己調整 ⑥のスピーチで他者参照を行い、相手の良いところを真似したり、言いたかったが言えなかった部分の練習を行う。その際、自分のマッピングに青色のペンで追加する。ペンを忘れた生徒用に余分に青色のペンを準備しておく。 ○⑥グループでスピーチを行う 作戦タイムを設けて、取り組ませる ○⑤アイデアを広げるためにペアマッピングで質疑応答を行う。 ペアで質疑応答を行う。ペアから質問されたワードは赤色で追加する。ペンを忘れた生徒用に余分に赤色のペンを準備しておく。 ○④ペアマッピング A3のペアマッピング専用シートを利用 ○③マンダラート 日本で食事をするときの「しなければならないこと」「してはならないこと」について思考ツールを使って、考えを広げる。 ②Teacher Talk 日本で生活をするALTの先生に、「日本ではしなければならないこと」「してはならないこと」を紹介しながら must, must not, have to, do not have to をバランスよく使う。 ○①基本文を定着させるために基本文トレーニングを行う。			
				<table><tr><td>主体的な学び</td><td>対話的な学び</td><td>深い学び</td></tr></table>	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
主体的な学び	対話的な学び	深い学び					
1	基本文トレーニング (Unit4)	Unit Question スピーチ ルーブリック 単元・学習内容		■Unit4 でどんなことを学ぶかを理解することができる。 ⑤単元の目標、学習内容の紹介 ④最終スピーチとルーブリックの説明 ③Unit Question の紹介 What is important in a homestay?が教科書の単元を貫く問いになっているが、What are the differences between school life in Japan and the Philippines?に変更し、ALTの先生に日本の生活について伝えていく単元だということを紹介する。			

				②Teacher Talk 日本と海外の生活様式の違いの例を出す ○①基本文トレーニングを行う。 ※単元の最後まで使う基本文をまとめて出す。 説明は必要最低限で行う。
				主体的な学び 対話的な学び 深い学び

3 本時の計画（全10時間中の9時間目）

本時の目標：事実や自分の考えを整理したマッピングをもとに簡単な語句や文を用いて伝えることができる。
 自己調整を図り、自分の発表を改善することができる。

流れ	内容	教師の役割		◇指導上の留意点 ◆評価【観点】（評価方法）
		OTE	ALT	
5min	3 択ペアチャット	生徒数が奇数の場合、OTE がペアに入る。		
3min	本番のルーブリックの確認	ルーブリックを表記したプリントを配布する。	ALT が生徒から質問を受けた日本とフィリピンの違いを整理したパワーポイントを示す。	◇具体的にどのような発表を行えば良いか具体的なイメージを持たせる。
5min	フィードバックの仕方の説明	付箋を配布する。 付箋には①良かった点②改善すべき点を書くことを伝える。		3 人班なら 1 人 2 枚、4 人班なら 1 人 3 枚を確実に渡す。
10min	中間発表① ・ 1 人 1 分強程度の発表 ・ その後 1 分間でフィードバックを記入する時間	グループでのスピーチに取り組ませる。 質疑応答もその時間で行う。 発表を終えたら付箋を発表者に渡す。		◇発表が難しそうにしている子へのサポートを行う。 ◇良いプレゼンテーションをしている子を発見し、中間指導に活かすことができるようにする。 ◆話すこと（発表）
5min	中間指導	中間発表で良かったプレゼンテーションを共有する。または、困っている生徒を見つけ、どのように英語で言えば良かったかをクラスで考える。		◇どのような点が良かったかを生徒たちに気付かせる。 ◇どのように英語

				で言えば伝わったかを考えさせる。
5min	作戦タイム	5分間、スピーチの準備をさせる。 中間指導を経て、真似したい表現や方法を取り入れて自分自身のプレゼンを改善させる。		◇iPadで未習の単語については調べさせる。マッピングシートに青色でメモをとらせる。 ◇自分の発表で何を変えたかを明確化させる。
10min	中間発表② ・1人1分程度の発表 ・その後1分間でフィードバックを班内で共有するために口頭で伝える。	グループでのスピーチに取り組ませる。		◇発表が難しそうにしている子へのサポートを行う ◇良いプレゼンテーションをしている子を発見し、本番へのイメージを具体的にさせる。 ◆話すこと（発表）
4min	フィードバック	グループスピーチを見て回り、良かった発表を取り上げる。		◇ジェスチャーだけではなく、内容的に素晴らしいものをクラス内で共有を行う。
3min	ふりかえり	ふりかえりシートに記入させる。		◇次回、本番発表であることを伝える。

UNIT 4 PRESENTATION(中間発表)

23@3

Class:

No:

Name:

Today's Goal: 事実や自分の考えを整理したマッピングをもとに、自分の発表について自己調整を図り改善することができる。

Step 1: 3 themes pair chat

Step 2: 評価基準

	A	B	C
英語	8文以上の英語 ※あいさつと締めくくりを除く	7文以下の英語 ※あいさつと締めくくりを除く	5文以下の英語 ※あいさつと締めくくりを除く
パワポ	話に関係のあるパワポ	話に関係のあるパワポだが、余計なものが多い	パワポなし ※iPad 忘れも
問いかけ	1つ問いかけ Yes/No で答える質問 <u>以外</u>	1つ問いかけ Yes/No で答える質問	質問なし
応答	質問に主語と動詞で答える	質問に答える	答えられない

Step 3: Feedback

①良かった点

②改善すべき点（ジェスチャー、アイコンタクト、ボリューム、ワン先生の手助けになっているか）

Step 4: Make a speech①

Speech→Question

Step 5: 自己調整タイム

Step 6: Make a speech②

Speech→Question

Step 7: Reflection

1	I think school trip is the best because we can help each other.	私は、修学旅行が一番よいと思います。なぜなら、お互いに助け合うことができるからです。
2	I think staying home is the best because I can play video games.	私は、家で過ごすのが一番よいと思います。なぜなら、テレビゲームができるからです。
3	I think taking photos is the best because I can save memories.	私は、写真を撮ることが一番よいと思います。なぜなら、思い出を残せるからです。
4	What are the differences between school life in the Philippines and school life in Japan?	フィリピンの学校生活と日本の学校生活の違いは何ですか。
5	Do you have school lunch in the Philippines?	フィリピンには給食がありますか
6	Do the students in the Philippines wear school uniform?	フィリピンの生徒は制服を着ますか。
7	Do students clean their classrooms by themselves?	生徒は自分たちで教室を掃除しますか。
8	What time does school start and end in the Philippines?	フィリピンでは学校は何時に始まり、何時に終わりますか。
9	What school events are popular in the Philippines?	フィリピンではどのような学校行事が人気ですか。
10	What would you do if you got a phone call on the train?	もし電車の中で電話がかかってきたら、 <u>あなたは</u> どうしますか。
11	People in Japan don't answer the phone on the train.	日本では、人々は電車の中で電話に出ません。
12	You <u>must(have to)</u> take off your shoes before entering a house in Japan.	日本では、家に入る前に靴を脱がなければなりません。
13	Ken <u>has to(must)</u> be on time for school in Japan.	ケン日本では学校に時間どおりに行かなければなりません。
14	You <u>don't have to give</u> a tip at restaurants in Japan.	日本では、レストランでチップを払う必要はありません。
15	He <u>doesn't have to bring</u> lunch.	彼は昼食を持ってくる必要はありません。
16	He <u>must not use</u> his smartphone in his room.	彼は自分の部屋でスマートフォンを使ってはいけません。
17	You <u>should be</u> quiet on the train.	電車の中では静かにすべきです。
18	<u>Recycling garbage</u> is an important habit in Japan.	<u>ごみをリサイクル</u> することは、日本では大切な習慣です。
19	<u>Using chopsticks correctly</u> is difficult for some visitors.	<u>正しく箸を使う</u> ことは、一部の旅行者にとって難しいです。
20	I like <u>watching fireworks</u> festivals.	私は花火大会を <u>見る</u> ことが好きです。
21	She likes <u>wearing a school uniform</u> .	彼女は制服を <u>着る</u> ことが好きです。

Q AND A PRACTICE 6

1	Why shouldn't we do that?	なぜそれをしてはいけないのですか？
2	What do you think about it?	それについてどう思いますか？
3	Why did you choose this idea?	なぜこの考えを選びましたか？
4	Why is this rule necessary?	なぜこのルールが必要ですか？
5	What is the most important rule?	一番重要なルールは何ですか？
6	Do you agree with this rule?	このルールに賛成ですか？
7	Which rule would you explain to Juan-sensei first?	どのルールを一番にワン先生に説明しますか？
8	Can you give me an example?	例を示してもらえますか？
9	Would you like to change this rule?	あなたはこのルールを変えたいですか？

[illegible]